

## 理研ビタミン

**フコイダン  
クロロセチン**  
**新知見を発表**
**新型インフル・網膜障害に効果**

理研ビタミンは、メカプ  
フコイダンとクロロセチンの  
健康機能性について、それ  
ぞれ共同研究による動物試  
験から、新しい研究知見を  
まとめた。メカプフコイ  
ダンでは、タミフル耐性株も  
含めた新型インフルエンザ  
の感染予防作用を確認し、  
感染予防や早期治療への貢  
献が示唆された。またクロ  
ロセチンでは、光による眼の  
障害を抑制する効果を確か  
し、加齢黄斑変性症などの  
網膜障害を予防する可能性  
が示された。両研究とも3  
月28日〜30日に岡山で開催  
された日本薬学会で発表が  
行われた。

製造販売を手がけている。  
これらの研究開発の過程に  
おいて、わかめメカプから  
抽出されるフコイダンで抗  
鳥インフルエンザ効果を、  
またクチナシ色素の色素成  
分の一種であるクロロセチ  
ンで眼に対する健康機能を見  
出し、機能性の解明や製品  
化などを進めてきた。今回  
の研究発表は、これまでの  
研究を基にさらなる機能性  
の検証を進めてきた成果で  
あり、両品目の機能性素材  
としての認知・利用の広が  
りが期待される。

メカプフコイダンについ  
ては、岡山大学大学院医学  
薬学研究部・生薬学研究室  
の林利光教授との共同研究  
によるもの。新型インフル  
エンザウイルス（H1N1  
亜型）のタミフル感受性株  
とタミフル耐性株を感染さ  
せたマウスに対し、メカプ  
フコイダンまたはタミフル  
を感染1週間前から感染1  
週間後までの2週間、経口  
投与した。その結果、メカ  
プフコイダン投与群ではタ  
ミフル感受性株、タミフル  
耐性株どちらに対しても肺  
や気道でのウイルス増殖が  
有意に抑制された。一方、  
タミフル摂取群では、感受  
性株に対する有意な増殖抑  
制作用は認められたが、耐  
性株に対しては効果がみら  
れなかった。また、感受性  
株の肺におけるウイルス増  
殖は、タミフルよりもメカ  
プフコイダンの摂取によっ

て強く抑制された。さらに  
ウイルスの感染性を消失さ  
せ感染予防に重要な役割を  
果たす抗体の産生は、メカ  
プフコイダンの摂取につい  
てのみ有意に上昇した。  
クロロセチンについては、  
岐阜薬科大学生体機能解析  
学大講座・薬効解析学研究

室の原英彰教授と共同研究  
を行ったもの。研究ではマ  
ウスに強い光を3時間照射  
して眼にダメージを与えた  
後、通常の光環境で4日間  
飼育し、その間クロロセチ  
ンの経口投与を行った。その  
結果、投与量に応じた視細  
胞の萎縮・細胞死の抑制を  
確認し、また網膜電位図測  
定によって視機能の低下抑  
制も確認した。光による眼  
へのダメージ蓄積は、加齢  
黄斑変性症などの網膜障害  
に関与することが指摘され  
ており、研究の結果から、  
これらの障害を予防する可  
能性が示唆された。